

表4 事故防止の指導活動に関する保健師からの要望：現状に対する満足度調査結果（カッコ内は未記入例を除いた構成比：％、n=272）

順位	検討内容	平均スコア (満足度)	各選択肢の回答者数				未記入例
			改善が是非必要	改善が必要	あまり問題はない	満足している	
1	効果的な指導方法(ノウハウ)	1.52	134 (51.3)	120 (46.0)	6 (2.3)	1 (0.4)	11
2	一般市民の事故防止の重要性に対する認識	1.56	118 (45.4)	138 (53.1)	4 (1.5)	0 (0.0)	12
3	子どもの事故の実態に関する正確なデータ	1.72	91 (34.9)	152 (58.2)	17 (6.5)	1 (0.4)	11
4	保健師自身の事故防止の重要性に対する認識	1.81	83 (31.8)	144 (55.2)	34 (13.0)	0 (0.0)	11
5	資料や教材を買うための予算	1.86	82 (31.3)	136 (51.9)	42 (16.0)	2 (0.8)	10
6	講演会やイベントを開催するための予算	2.00	63 (24.2)	138 (53.1)	55 (21.2)	4 (1.5)	12
7	健診における指導事項の数と量	2.02	52 (19.9)	153 (58.6)	54 (20.7)	2 (0.8)	11
8	健診での保健師一人当たりの指導時間	2.19	33 (12.7)	147 (56.8)	76 (29.3)	3 (1.2)	13
9	現場が思うことに対する上司の許可や理解度	2.26	37 (14.3)	123 (47.5)	93 (35.9)	6 (2.3)	13

回答選択肢をスコア化し(改善が是非必要1点、必要2点、あまり問題はない3点、満足している4点)、各項目毎に算出した平均値を平均スコアとして示した

表5 乳幼児健診以外で事故防止指導を行うのに適切な場所（カッコ内は未記入例を除いた構成比：％、n=272）

順位	事故防止指導を行う場所	平均スコア	各選択肢の回答者数				未記入例
			非常によい	よい	あまりよくない	適していない	
1	保健所で行う育児支援行事(育児相談、健康教室など)	3.57	156 (57.8)	112 (41.5)	2 (0.7)	0 (0.0)	2
2	子育て支援センター(保育所)	3.49	135 (50.0)	132 (48.9)	3 (1.1)	0 (0.0)	2
3	子育てに関係する公共施設	3.43	115 (42.9)	152 (56.7)	1 (0.4)	0 (0.0)	4
4	事故防止のための講習会	3.36	109 (41.0)	145 (54.5)	12 (4.5)	0 (0.0)	6
5	医療機関(小児科)	3.33	110 (41.4)	139 (52.3)	13 (4.9)	4 (1.5)	6
6	児童館	3.29	95 (36.1)	152 (57.8)	12 (4.6)	4 (1.5)	9
7	事故防止のための講演会	3.18	81 (30.5)	154 (57.9)	29 (10.9)	2 (0.8)	6
8	新生児訪問(家庭内の危険な場所をチェック)	3.16	97 (38.3)	120 (44.9)	45 (16.9)	5 (1.9)	5
9	医療機関(産科)	3.00	61 (23.1)	151 (57.2)	43 (16.3)	9 (3.4)	8
10	母親教室(マタニティスクール)	2.91	59 (22.2)	139 (52.3)	54 (20.3)	14 (5.3)	6
11	予防接種で保健所に来所した時	2.52	31 (11.6)	113 (42.3)	87 (32.6)	36 (13.5)	5
11	保健所で行う歯科関係の行事	2.52	23 (8.8)	116 (44.6)	93 (35.8)	28 (10.8)	12

対象が回答した選択肢をスコア化し(非常によい4点、よい3点、あまりよくない2点、適していない1点)、各項目毎に算出した平均値を平均スコアとして示した

表6 子どもの事故防止にとって望ましい指導者（カッコ内は未記入例を除いた構成比：％、n=272）

順位	事故防止指導を行う指導者	平均スコア	各選択肢の回答者数				未記入例
			非常によい	よい	あまりよくない	適していない	
1	事故防止の講習を受けて指導員の資格をもつ保健師	3.73	193 (72.8)	73 (27.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	6
2	救急隊員	3.55	159 (59.8)	95 (35.7)	12 (4.5)	0 (0.0)	6
3	保育士	3.40	111 (41.9)	149 (56.2)	5 (1.9)	0 (0.0)	7
4	小児科医	3.35	111 (41.6)	141 (52.8)	13 (4.9)	2 (0.7)	5
4	事故防止の講習を受けて指導員の資格をもつボランティア	3.35	110 (42.3)	132 (50.8)	17 (6.5)	1 (0.4)	12
6	保健師	3.26	79 (29.8)	176 (66.4)	9 (3.4)	1 (0.4)	7
7	看護師	3.17	68 (25.8)	173 (65.5)	22 (8.3)	1 (0.4)	8
8	養護教諭	3.16	75 (28.2)	161 (60.5)	27 (10.2)	3 (1.1)	6
9	事故防止の活動経験をもつボランティア	3.11	66 (26.0)	150 (59.1)	37 (14.6)	1 (0.4)	18
10	警察官	2.97	70 (26.8)	127 (48.7)	50 (19.2)	14 (5.4)	11

対象が回答した選択肢をスコア化し(非常によい4点、よい3点、あまりよくない2点、適していない1点)、各項目毎に算出した平均値を平均スコアとして示した

## 郵送用事故防止パンフレットについての保護者の考え方

主任研究者 田中 哲郎 国立保健医療科学院生涯保健部  
研究協力者 石井 博子 国立保健医療科学院生涯保健部  
市川光太郎 北九州市立八幡病院小児科  
安藤 昭和 飯塚病院小児科

**研究要旨：**健診機会を利用して子どもの事故防止を図ることは、健診が発達の節目に行われており、発達と事故の関係が密接な関連を持つことより有効な方法とされる。しかし、必ずしも同じ施設で頻回に健診を受けないとも考えられることより、健診と健診の間に郵送用パンフレットにより啓発する方法が考えられることより、3カ月、9カ月、13カ月頃に必要とされる事故防止について啓発する事例パンフレットを作成し、このパンフレットに対する保護者の考え方について調査を行った。

その結果、パンフレットの内容について役立つ内容であったとの回答が90.8%にみられた。また、保護者に同パンフレットを配布すべきとする者が75.4%にみられた。健診で事故防止指導を行った保護者は、事故防止について知識があると答えた者が病気などより多くみられており、事故防止の啓発は効果があると考えられた。

### 1. パンフレット郵送による事故防止とは

健診の機会を利用しての事故防止指導は最も有用な方法の一つであると考えられるが、開業医での健診は1カ月、3～4カ月、6カ月、9カ月、1歳、1歳6カ月、3歳児健診などの健診が全て実施しているとは限らない。多くの自治体では6カ月健診および1歳6カ月児健診が開業医に委託され、保護者は開業医の所で無料で健診を受けることが多い。

しかし、この6カ月から1歳6カ月までの間は子どもの事故が最も多い時期とされ、6カ月児健診において、この1年間に多くみられる事故全てについて指導することは容易ではない。

以上のことより、この間に必要と思われる事故防止のための情報を郵送にて発信することが考えられる。3カ月頃、また1歳少し前、1歳少し後に、その時期に多い事故について、気配りを必要と考えられる項目を簡単にまとめた事例を中心とした指導パンフレットを郵送し事故防止指導をすることが考えられる。

このことより、平成9年に全国の医療施設において実施された14,512例の事例を分析し、対象とする時期に多い事故を中心に、事例より5項目を選びイラスト入りのパンフレットを作成した。

この方法は郵送料を必要とするが、かかりつけ医が子どもの安全や健康について気遣いしてくれるということは、医療機関の評判にもよい影響があると考えられる。

### 1. 郵送用パンフレットに対する保護者の考え方

#### (1) 方法

郵送用パンフレットについては、北九州地域において実際に事故防止を計るために使用したので、それに対する保護者の考え方について調査を実施した。

方法は6カ月健診時に安全チェックリストへの記入を依頼し、その際に事故防止活動を行うことに同意した保護者に対して、生後10～11カ月頃に事故防止のパンフレットを郵送した。その際に調査用紙を同封し、記入を依頼し郵送にて回収を行った。

調査は平成14年11月から平成15年12月にかけて実施した。

#### (2) 結果

##### ① 回答数

郵送による調査用紙の回答数は293通である。その属性は母親が290名(99.0%)、父親

が3名(1.0%)、不明が1名(0.3%)であった。

## ② パンフレットを読んだ者

パンフレットを読んだ人は回答者 293 名中 290 名(99.0%)、不明が3名(1.0%)であった。

## ③ パンフレットの内容について

パンフレットの内容について、事故防止に役立つ内容の有無については、役立つ内容があったと答えた者が266名(90.8%)、役立つなかったが19名(6.5%)、不明が8名であった。

役立つ内容については、転倒事故が145名(49.5%)、誤飲事故160名(54.6%)、はさむ事故が166名(56.7%)、熱傷が142名(48.5%)、転落事故が116名(37.5%)、溺れる事故が50名(17.1%)であった。

## ④ 事故防止の情報について

このような事故防止の情報を求めているかについては、求めていると答えた者が179名(61.1%)、あまり求めていなかった者が9名(3.1%)、どちらとも言えないと答えた者が100名(34.1%)、不明が5名(1.7%)であった。

## ⑤ 全国の保護者への配布

全国の保護者に対して、このような事故防止のパンフレットを配布した方がよいかの考えについては、配布した方がよいと考える者が221名(75.4%)、配布する必要がないが2名(0.7%)、どちらとも言えないと答えた者が70名(23.9%)であった。

## ⑥ 医院、保健所、保育園などでの配布

病院や医院、保健所、保育園などにおいて、このようなパンフレットが簡単に手に入るようになるという良いかについての考え方では、そう考える者が274名(93.5%)、どちらとも言えないが16名(5.5%)、不要が3名(1.0%)であった。

## 事故防止の講習会への参加

近所の保健所や保育園などで事故防止の講習会開催時の参加の有無については、参加したいと

の考えをもつ者が168名(57.3%)、参加しないとの考えをもつ者が28名(9.6%)、どちらとも言えないと答えたものが96名(32.8%)であった。

## ヒヤリとする事故経験

最近、ヒヤリとする事故経験の有無については、そのような経験があった者が208名(71.0%)、そのような経験がなかった者が81名(27.6%)、不明が4名(1.4%)であった。

保護者の事故防止、応急手当等の知識について  
事故防止：事故防止の知識について、自信がおおいにある者が10名(3.4%)、多少ある者が101名(34.5%)、普通が147名(50.2%)、あまりない者が34名(11.6%)、全くないが1名(0.3%)であった。

応急手当：応急手当の知識について、自信がおおいにある者が5名(1.7%)、多少ある者が48名(16.4%)、普通が92名(31.4%)、あまりない者が131名(44.7%)、全くない者が17名(5.8%)であった。

心肺蘇生法：心肺蘇生法の知識について、自信がおおいにある者が5名(1.7%)、多少ある者が53名(18.1%)、普通が68名(23.2%)、あまりない者が108名(36.9%)、全くない者が59名(20.1%)であった。

病気についての知識：病気についての知識について、自信がおおいにある者が6名(2.0%)、多少ある者が62名(21.2%)、普通が111名(37.9%)、あまりない者が105名(35.8%)、全くない者が9名(3.1%)であった。

大いにあるを5、多少あるを4、普通を3、余りないを2、全くないを1としてスコア化すると、事故は3.29、応急手当は2.63、心肺蘇生は2.44、病気は2.83となり、事故が最も高くなっており、事故啓発が効果があり、事故についてが最も高くなったとも考えられた。

## おわりに

健診と健診の期間があき事故防止について保護者を啓発できない際に、郵送により啓発する方法を考案した。同方法を北九州地区で実施し、保護者の考え方について調査を実施した結果、多くの保護者(90%以上)が役立つ内容であったと回答しており、有効な方法の一つと考えられた。

## 郵送用パンフレットに対する保護者の考え方

1. 事故防止に役立った内容の有無 (N=293)
 

役立つ内容	有り	266 ( 90.8 % )
	無し	19 ( 6.5 % )
不明		8 ( 2.7 % )
  
2. 役立った主な内容 (N=293)
 

1. はさむ事故	166 ( 56.7 % )
2. 誤飲事故	160 ( 54.6 % )
3. 転倒事故	145 ( 49.5 % )
4. 熱傷	142 ( 48.5 % )
5. 転落事故	110 ( 37.5 % )
6. 溺水事故	50 ( 17.1 % )
  
3. このような事故防止の情報を求めているか (N=293)
 

求めている	179 ( 61.1 % )
求めていなかった	9 ( 3.1 % )
どちらともいえない	100 ( 34.1 % )
不明	5 ( 1.7 % )
  
4. 全国的に配布の必要性の有無 (N=293)
 

必要あり	221 ( 75.4 % )
必要なし	2 ( 0.7 % )
どちらともいえない	70 ( 23.9 % )
  
5. 事故防止の講習会参加の希望 (N=293)
 

参加の希望あり	168 ( 57.3 % )
参加の希望なし	28 ( 9.6 % )
どちらともいえない	96 ( 32.8 % )
  
6. 医療機関・保健所・保育園での配布の希望 (N=293)
 

配布の希望あり	274 ( 93.5 % )
配布の希望なし	3 ( 1.0 % )
どちらともいえない	16 ( 5.5 % )
  
7. 最近事故についてヒヤリとした経験の有無 (N=70)
 

あり	208 ( 71.0 % )
なし	81 ( 27.6 % )
不明	4 ( 1.4 % )

### 8. 記入者自身の知識について (N=70)

	大いにある	多少ある	普通	余りない	全くない	総数	スコア*
事故	10 (3.4)	101 (34.5)	147 (50.2)	34 (11.6)	1 (0.3)	293 (100.0)	3.29
応急手当	5 (1.7)	48 (16.4)	92 (31.4)	131 (44.7)	17 (5.8)	293 (100.0)	2.63
心肺蘇生法	5 (1.7)	53 (18.1)	68 (23.2)	108 (36.9)	59 (20.1)	293 (100.0)	2.44
病気	6 (2.0)	62 (21.2)	111 (37.9)	105 (35.8)	9 (3.1)	293 (100.0)	2.83

\*大いにある5、多少ある4、普通3、余りない2、全くない1とした際にスコア

子どもの事故防止と市町村への事故対策支援に関する研究

市町村における事故防止活動を推進するための  
インターネットによる教材提供サイトの開設

田中哲郎 国立保健医療科学院生涯保健部

要約

1. 市町村における事故防止活動

子どもの事故防止は20世紀に解決できずに21世紀に持ち越された小児保健上の重要な課題である。

このため、厚生労働省母子保健の国民運動計画である「健やか親子21」の4本柱の一つの小児保健医療水準を維持・向上させるための環境整備の中で取りあげられ、「小児の事故の大部分は予防可能であることから、小児の発達段階に応じた具体的な事故防止方法について、家庭や乳幼児・児童を扱う施設の関係者に対し、あらゆる機会を利用して情報提供、学習機会の提供を行う。家庭と地域における事故防止対策を浸透させるために、まず都道府県と市町村レベルに協議会を設け、地域における目標を設定し、事故防止対策の企画・立案・推進・評価を行う。

保健所等に事故防止センターを設置し、家庭や乳幼児・児童を扱う施設の関係者に対し、事故事例の紹介、具体的な事故防止方法の教育の実施、乳幼児の模型を用いた心肺蘇生術等の応急手当の学習機会の提供等を行う。地域で生じた小児事故事例について医療機関等から定期的に把握し、原因の分析等を行うとともに、関係者に対しその情報提供を行う。また、事故や家屋や施設の構造上に問題があるなど物理的な環境で生じること多いことから、物理的環境の改善を進める等の取組も考えられる。併せて、マスメディアを通じた広報も活用していく。」とされている。同時に行政・関係機関等の取組指標として、事故防止対策を実施している市町村の割合を2010年までに100%とすることが記されている。

また、平成15年秋に成立した次世代育成支援対策推進法の行動計画策定指針に「乳幼児健診等の場を通じて、誤飲、転落・転倒、やけど

等の子どもの事故の予防のための啓発等の取組を進めることが望ましい」とされている。

2. 市町村の事故防止活動推進を計る方策

平成15年に行った佐原らの調査<sup>1)</sup>によると、13年に比べ市町村の事故防止活動は「事故防止に関するパンフレットを配布する」、「パンフレットを基に保護者に説明する」、「今まで実施してきた集団指導の中に、事故防止の内容を盛り込む」が4.5～10%実施市町村の増加のみであり、取り組みがなされていない市町村においては、パンフレット、安全チェックリストなどの印刷物の無償入手があれば事故防止活動が可能との答えが多数見られた。この結果より、乳幼児健診時に安全チェックリスト、月齢、発達に応じた「パンフレット」などの市町村が配布できるような教材を提供する必要があり、このためには無償配布またはインターネットのダウンロードによる原本配布が望ましいとされている。

一方、長村らの調査<sup>2)</sup>によると、京都府内の272名の保健師に対し意識調査を行った結果、乳幼児健診での指導内容として必要度が最も高い項目として「事故防止の指導と発達のチェック」がともに96.9%で、大部分の保健師が事故防止指導は健診で行うべきであると回答しており、望ましい指導手段としては講習会形式と安全チェックリストの使用への支持が高く、事故防止指導法を学ぶために保健師の研修会への参加を89.9%、インターネットでの指導用教材の公開を92.2%が希望している。

これらの調査結果より、市町村の事故防止を推進するためには、無償の教材提供が不可欠とされた。

3. 教材提供方法

市町村の事故防止を推進するためには、教材の確保を行う必要がある。予算を確保して、独自に教材を作成することが望ましい。このことより、平成14年度より東京都、また平成15年度より大阪府では独自に安全チェックリストやパンフレットおよび指導マニュアルを印刷しているが、多くの市町村において、予算を確保することは容易ではない。事業の必要性の有無にかかわらず財政状況は厳しく、また市町村単位では安全チェックリストやパンフレットの必要部数も少なく、コストも高くなることが考えられる。また、中央で印刷して配布することも考えられるが、誰が費用を負担するのかなど難しい問題が多くみられ、容易に実現することはできそうもない。

このことより、教材の原本をインターネットでダウンロードして各施設においてコピーや輪転機を使用して作成することが現実的な対応とされたことより、国立保健医療科学院のホームページから「子どもに安全をプレゼント・事故防止支援サイト」を作り、ここから教材を得られるようにした。

## 2. 保健医療・保育関係者用提供教材内容

### 1) 健診用安全チェックリストと対応パンフレット (8種類)

- ① 母親・両親学級用
- ② 1か月児健診用
- ③ 3～4か月児健診用
- ④ 6か月児健診用
- ⑤ 9か月児健診用
- ⑥ 1歳児健診用
- ⑦ 1歳6か月児健診用
- ⑧ 3歳児健診用

\*A4用紙に両面印刷して3つ折りにする

### 2) 発達別事故防止 (保育園用)

- |                 |     |
|-----------------|-----|
| ① 寝返りをはじめたら     | 4～6 |
| か月              |     |
| ② 物がつかめるようになったら | 6～7 |
| か月              |     |
| ③ ハイハイをはじめたら    | 8～9 |
| か月              |     |
| ④ つかまり立ちをはじめたら  | 10～ |
| 11か月            |     |
| ⑤ 歩きはじめたら       | 12か |
| 月               |     |
| ⑥ ちょっと走りをはじめたら  | 1歳  |
| 半～              |     |
| ⑦ 外遊び           | 1歳  |
| 半～              |     |

- |            |     |
|------------|-----|
| ⑧ 外出するとき   | 誕生  |
| ～          |     |
| ⑨ 3歳児の事故防止 | 3歳～ |
| ⑩ 4歳児の事故防止 | 4歳～ |
| ⑪ 5歳児の事故防止 | 5歳～ |

\*A4用紙に両面印刷して3つ折りにする

### 3) 家庭内点検プログラム (Home Safety 100)

16頁 小冊子

### 4) 応急手当法

A3 6つ折り

### 3. 一般用の事故防止情報

一般用は事故についての一般情報・応急手当啓発用である。

- ① 年齢別に多い事故
  - (i) 0～1歳
  - (ii) 1～2歳
  - (iii) 3～6歳
- ② 応急手当

### 2) 安全チェックリスト

健診に行けなかった人がインターネット上で安全チェックを行い、それについて説明がなされている。

- ① お誕生日前用
- ② 1か月児以降用
- ③ 3～4か月児以降用
- ④ 6か月児以降用
- ⑤ 9か月児以降用
- ⑥ 1歳児以降用
- ⑦ 1歳6か月児以降用
- ⑧ 3歳児以降用

ご案内

ENGLISH

アクセス

FRENCH

入学案内

SPANISH

お知らせ

CHINESE

お問い合わせ

KOREAN



# 国立保健医療科学院

NATIONAL INSTITUTE OF PUBLIC HEALTH



mail:webmaster@niph.go.jp

## TOPICS

当院のトピックス情報のご案内です。お問い合わせは下記担当セクションまで直接お問い合わせ下さい。

タイトル	更新年月日	お問い合わせ先
■健康危機管理支援情報システム		
■厚生労働省の研究成果-NEW-		
■インターネットによる遠隔教育-NEW-		
■電磁界と健康影響		
■自殺防止研究プロジェクト-NEW-		
■青少年暴力		
■疫学倫理指針 (邦文) (英文)		
■研究倫理審査委員会		
■地域予防サービスガイド		
■事故防止支援サイト-NEW-		



# 子どもに安全をプレゼント 事故防止支援サイト



事故は子どもの健全育成を妨げる最大の要因となっています。特にわが国の子どもの事故による死亡率は先進国の中では高いことが明らかになっています。このため、厚生労働省の「健やか親子21」では全ての家庭および市町村が事故防止対策を実施すべきとしております。このサイトでは子どもの事故を防ぐための情報と教材の提供をすることにしました。『子ども達に安全をプレゼント』することのお手伝いできれば幸いです。

国立保健医療科学院 生涯保健部長  
田中哲郎

**保健医療・保育関係者用**

→ 保健医療・保育関係者はこちらから  
(登録が必要です)

**一般の方用**

→ 一般の方はこちらから  
(健診用安全チェックテストができます)

子どもの事故防止支援サイト:保健関係者用

1/1 ページ

# 子どもに安全をプレゼント 事故防止支援サイト

事故防止の教材を提供していますのでご利用ください。  
ダウンロードして、コピーして使用してかまいませんが、著作者名は必ず残してください。  
また、使用者の所属、住所、氏名、使用目的を御記入ください。

所属

住所

氏名

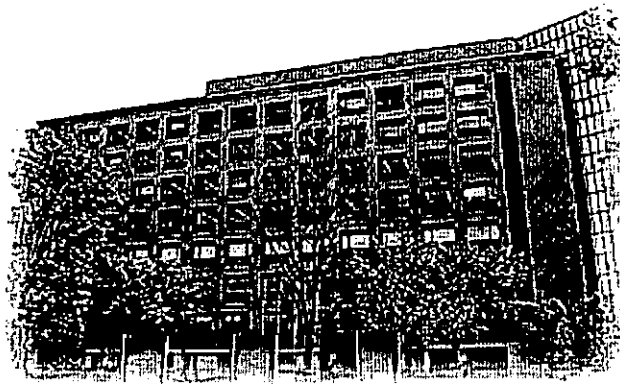
電話番号

使用目的

**送信**      **リセット**



トップ > 保健医療・保育関係者用トップ



健診用チェックリストと指導パンフレット

発達別事故防止パンフレット

家庭内安全チェックリスト  
 (ホームセーフティ100)

応急手当法

上記のチェックリストなどの詳細な使用方法につきましては  
 「新子どもの事故防止マニュアル、診断と治療社」にも掲載されております。

※次回ご覧になる場合のために、お気に入りに登録されると便利です。

子どもの事故防止支援サイト: 保健関係者用 > 健診用チェックリストと指導用パンフレット 1/1 ページ

保健医療・保育関係者用トップページ

トップ > 保健医療・保育関係者用トップ > 健診用チェックリストと指導用パンフレット

1ヶ月児健診用



- ・チェックリスト(178KB)
- ・指導パンフレット/表(385KB)
- ・指導パンフレット/裏(715KB)

3～4ヶ月児健診用



- ・チェックリスト(180KB)
- ・指導パンフレット/表(341KB)
- ・指導パンフレット/裏(682KB)

6ヶ月児健診用



- ・チェックリスト(187KB)
- ・指導パンフレット/表(393KB)
- ・指導パンフレット/裏(582KB)

9ヶ月児健診用



- ・チェックリスト(181KB)
- ・指導パンフレット/表(332KB)
- ・指導パンフレット/裏(570KB)

1歳児月健診用



- ・チェックリスト(181KB)
- ・指導パンフレット/表(318KB)
- ・指導パンフレット/裏(435KB)

1歳6ヶ月健診用



- ・チェックリスト(191KB)
- ・指導パンフレット/表(313KB)
- ・指導パンフレット/裏(605KB)

3歳児健診用



- ・チェックリスト(183KB)
- ・指導パンフレット/表(562KB)
- ・指導パンフレット/裏(1179KB)

母親・両親学級用



- ・チェックリスト(163KB)
- ・指導パンフレット/表(397KB)
- ・指導パンフレット/裏(539KB)

## 1か月児健診用安全チェックリスト(0~4か月児対応)



子どもの周りには危険が一杯です。この機会にもう一度子どもの目の高さにおいて安全チェックをしてください。  
アンケートに記入し、同時に子どもの“安全”と“危険”について考えてみてください。  
安全チェックリストは記入後、健診時にご持参ください。

記入者の名前 \_\_\_\_\_

子どもの名前 \_\_\_\_\_

子どもの性別      男 ・ 女 \_\_\_\_\_

生 年 月 日      年      月 (      才      か月)

1. 赤ちゃんを家に一人置いて出かけることや、車の中に一人で乗せておくことがありますか。	いいえ	はい
2. 赤ちゃんを抱いているとき、自分の足元に注意していますか。	はい	いいえ
3. 赤ちゃんを抱いているとき、あわてて階段を降りることがありますか。	いいえ	はい
4. 赤ちゃんをクーハン（かご）に寝かせて持ち上げるとき、両方の取っ手をしっかり握っていますか。	はい (使用しない)	いいえ
5. 赤ちゃんを抱いていて、つまずきやすい場所に、角のとがったテーブルや家具がありますか。	いいえ	はい
6. 赤ちゃんのまわりにタバコや小物を置いていますか。	いいえ	はい
7. 赤ちゃんは暖房器具（ストーブ、こたつなど）の熱が直接ふれないように寝かせていますか。	はい	いいえ
8. 寝ている赤ちゃんの上に、物が落ちてこないようにしてありますか。	はい	いいえ
9. 赤ちゃんを抱いて自動車に乗ることがありますか。	いいえ (車は使用しない)	はい
10. 赤ちゃんを抱いているとき、ドアを勢いよく閉めることがありますか。	いいえ	はい
11. 入浴中の赤ちゃんから目を離すことがありますか。	いいえ	はい
12. 母乳やミルクを飲ませた後はゲップをさせ、寝かせていますか。	はい	いいえ
13. 敷布団は硬めの物を使用していますか。	はい	いいえ

著作：田中哲郎 禁 無断複写

**11) 入浴中の赤ちゃんから目を離すことがありますか。**

オムツを取り替えたり、授乳をしたりでお母さんは意識不足です。赤ちゃんと一緒にお風呂に入っていたら、赤ちゃんが滑りに落ちてしまったり、うづがせにして体を洗っていたら、溺れがお湯について蒸れてしまうなどの事故が起きています。



入浴中の赤ちゃんから目を離さない。  
入浴中の赤ちゃんを一人にして、着替えを取りに行ったり、電話に出たりしない。

**12) 母乳やミルクを飲ませた後はゲップをさせ、寝かせていますか。**

母乳やミルクを飲んだ後は、排気が十分でないで授乳をもどしてしまい、口の中に吐物が残っていると窒息事故につながります。飲いたものがのどや気管につまらぬように寝かせ、寝かせてから10分～15分位は気を付けて見ているようにします。



母乳やミルクを飲ませた後はゲップをさせ寝かせる。  
口の中に吐物がないか確認をする。

**13) 敷布団は硬めの物を使用していますか。**

敷布団は柔らかすぎると赤ちゃんの顔が埋まってしまい、鼻や口がふさがれてしまいます。敷布団やタオルなどが顔に深くかかっているか、寝ている顔でも顔の様子を見るようにします。



敷布団は硬めの物を使用し、あお向けに寝かせる。  
敷布団は顔に深くかけすぎない。  
顔の側にタオルやガーゼは置いておかない。



著者 国立保健医療科学院 生涯保健部  
田中 智郎

無償提供

# 子どもに安全をプレゼント

**1か月児健診用**  
(0～4か月児対応)



事故防止のポイント(その1)

国立保健医療科学院 生涯保健部  
田中 智郎

**① 子どものまわりに危険がいっぱい**  
周囲のちょっとした気づかりで事故の大部分は防げます。

**1) 赤ちゃんを家に一人置いて出かけることや、車の中に一人で乗せておくことがありますか。**

赤ちゃんが寝ている少しの間、赤ちゃんの目を離して買い物などに出かける人がみられます。出かける時は寝ている赤ちゃんが起きるまで戻り、戻りやイヤホンがでるようには、家の中を動き回らないように危険が待ち受けています。また、火災や地震など災害の際にも一人は外出できません。赤ちゃんは自分自身で身の安全を守ることができないので、大人が常に目をかける必要があります。また、夏に赤ちゃんを自動車の中に置いておくと、体温が上昇し、脱水や熱射病の原因になります。車内温度は短時間で50℃以上上昇し、40～50℃になります。



赤ちゃんを家に一人置いて外出しない。  
車から降りるときは必ず赤ちゃんも一緒に降ろす。

**2) 赤ちゃんを抱いているとき、自分の足元に注意していますか。**

今まで簡単に通っていた所でも、赤ちゃんを抱いていると足元が見えにくいので、床が滑りやすかったり、カーペットがめくれだたり、ちょっとした段差にもつまづいてしまいます。赤ちゃんを抱いたまま歩くと、体が傾きやすくなり、滑りやすくなり、テーブルや家具にぶつかってしまうので注意が必要です。



赤ちゃんを抱いているときは、自分の足元に注意して行動する。

**3) 赤ちゃんを抱いているとき、あわてて階段を降りることがありますか。**

赤ちゃんを抱いていると足元が見にくいので、階段を降りるときは踏み外したり、膝下やズリを履き替えて、滑って赤ちゃんを落としたりする事故があります。階段などの高い場所からの転落は、重症事故につながりやすいので注意が必要です。階段のカーペットは足元の滑り止めを確保し、両脇の手すり止めを貼るのも手軽な安全対策です。ただし、種類に出っ張ると逆につまづく原因になります。



赤ちゃんを抱いているときは、階段の上り下りを慎重に行う。

**4) 赤ちゃんをクローゼット(かご)に寝かせて持ち上げるとき、両方の取っ手をしっかりと握っていますか。**

クローゼットの横に倒れると、取っ手を片方しか握っていないのに気がずかず持ち上げて、赤ちゃんを落としたり、持ち運んでいるとき取っ手が取れて寝ている赤ちゃんが転落してしまう事故があります。



赤ちゃんをクローゼット(かご)に寝かせて持ち上げるとき、必ず両方の取っ手を握っているのを確認する。

**5) 赤ちゃんを抱いていて、つまづきやすい場所に、角のとがったテーブルや家具がありますか。**

ベビーベッドに寝かせようとしたとき、のけぞってベッドの横にぶつかってしまったら、ミルクを飲みあふらして抱きかかえたとき、急に寝る後頭でテーブルにぶつかったり、赤ちゃんはこぼしてしまいます。赤ちゃんを抱きかかると、つまづきやすい角のとがったテーブルや家具にぶつかると危険です。



角のするどい家具やテーブルはクッション等でカバーする。

**6) 赤ちゃんのまわりにタバコや小物を置いていますか。**

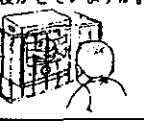
しゃぶっているおもちゃの部品が外れて入ったり、お兄ちゃんお姉ちゃんが赤ちゃんの口にタバコを入れてしまったら、少し大きくなると赤ちゃんのお鼻なども口に入れたりしますが、赤ちゃんの口の大きさは最大32mmなので、これより小さなものは飲み込んでしまいます。



部屋の中の小物を整理整頓しておく。  
タバコや灰皿は赤ちゃんの手の届かないところに置く。  
自宅だけでなく、実家やよその家に出かけたときも注意する。

**7) 赤ちゃんは暖房器具(ストーブ、こたつなど)の熱が直接ふれないように寝かせていますか。**

冬は暖房器具によるやけどが多くあります。体温より少し高いくらい温度でも、長時間あて続けると低温やけどをおこすことがあります。赤ちゃんの皮膚は大変デリケートで、ほんの少しの熱でも重症な熱傷になる危険があります。



赤ちゃんはストーブ・ヒーターの熱が直接あたらないように寝かせる。  
こたつや電気カーペットは長時間使わない。

**8) 寝ている赤ちゃんの上に、物が落ちてこないようにしてありますか。**

赤ちゃんの上に、テーブルの上の哺乳ビンが倒れたり、タンスの上の物が落ちてきたり、お兄ちゃんお姉ちゃんが遊んでいるおもちゃが落ちてきたり、上から落ちてきた物が赤ちゃんにあたり、外傷や打撲を負ってしまう事故があります。



寝ている赤ちゃんの上には、物が落ちてこないようにする。

**9) 赤ちゃんを抱いて自動車に乗ることがありますか。**

生まれたばかりの赤ちゃんでも、抱きかかえて自動車に乗せるのは危険です。抱いていても車が衝突したり、急に止まると、乳幼児は前から飛び出し、衝撃をまともに受けてしまいます。たとえゆっくり走っていても最新のエネルギーは予想以上に大きく、大人の手の力では支えきれません。



車に乗るときは年齢にあったチャイルドシートを後部座席に取り付け使用する。

**10) 赤ちゃんを抱いているとき、ドアを勢いよく閉めることがありますか。**

赤ちゃんの小さな指はちょっとした瞬間にも閉鎖に入ってしまう。ドアのすき間に指が入っているのを知らず勢いよく閉めたり、閉け放しておいたドアが強風で急に閉まって指が閉まってしまったりする事故があります。



ドアを開閉するときは、赤ちゃんの手の位置を確認する。

## 3～4か月児健診用安全チェックリスト(3～6か月児対応)



子どもの周りには危険が一杯です。この機会にもう一度子どもの目の高さにおいて安全チェックをしてください。  
アンケートに記入し、同時に子どもの“安全”と“危険”について考えてみてください。  
安全チェックリストは記入後、健診時にご持参ください。

記入者の名前 \_\_\_\_\_

子どもの名前 \_\_\_\_\_

子どもの性別      男 ・ 女 \_\_\_\_\_

生 年 月 日      年      月 (      才      か月)

1. ベビー用品は月齢や使用目的にあったものを選び、取り扱い説明書をよく読んでいますか。	はい	いいえ
2. ベビーベッドの柵はいつも上げていますか。	はい (使用しない)	いいえ
3. テーブル、ソファなどの上に赤ちゃんを寝かせたまま目を離すことがありますか。	いいえ	はい
4. 赤ちゃんを抱きながら、熱い食べ物や飲み物を食べたり飲んだり、料理することがありますか。	いいえ	はい
5. 赤ちゃんを抱いたり、おぶったりするときは、周りにぶつかると危ない所がないか確認をしていますか。	はい	いいえ
6. タバコや灰皿はいつも赤ちゃんの手の届かない所に置いていますか。	はい	いいえ
7. 自動車に乗るとき、チャイルドシートを後部座席に取り付けて使用していますか。	はい (車は使用しない)	いいえ
8. 赤ちゃんを抱いているとき、自分の足元に注意していますか。	はい	いいえ
9. 赤ちゃんの腕を、お兄ちゃんやお姉ちゃんが強く引っ張ることがありますか。	いいえ	はい
10. 赤ちゃんの指がドアに触れていないのを確認してから開閉を行っていますか。	はい	いいえ
11. ベビーベッドの柵とマットレスの間にすき間がありますか。	いいえ (使用しない)	はい

著作：田中哲郎 禁 無断複写

**10** 赤ちゃんの指がドアに触れていないのを確認してから開閉を行っていますか。

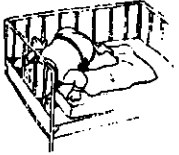
赤ちゃんの小さな指はちよつとしたすき間にも簡単に入ってしまいます。赤ちゃんをおんぶしているときに、赤ちゃんがドアを閉めようとしているのに気づかずドアを閉めてしまったり、開け放しておいたドアが強風で急に閉まると赤ちゃんの手がはさまれてしまう事故があります。



ドアの開閉をするときは、赤ちゃんの手的位置を確認する。  
ドアを開け放すときは、扉などを急に閉まらないようにドアクローザー、ドアストッパーなどで固定する。

**11** ベビーベッドの柵とマットレスの間にすき間がありますか。

ベビーベッドの柵とマットレスや敷布団の間に、赤ちゃんの頭が入るようなすき間があると、頭がはさまって動けなくなり、窒息する危険があります。すき間ができる場合は使用をやめるか、タオルなどをはさみすき間をなくして使用します。



ベビーベッドはベッドの柵とマットレスや敷布団の間にすき間がないか調べて使用する。



著者 国立保健医療科学院 生産保健部 田中 哲郎

編集監修

**子どもに安全をプレゼント**

**子どもに安全をプレゼント**

3~4か月児健診用  
(3~6か月児対応)



事故防止のポイント(その2)

国立保健医療科学院 生産保健部 田中 哲郎

**1** 子どものまわりに危険がいっぱい周囲のちよつとした気くばりで事故の大部分は防げます。

**1** ベビー用品は月齢や使用目的にあったものを選び、取り扱い説明書をよく読んでいますか。

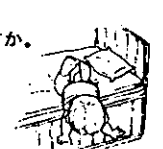
赤ちゃんが使うものはすべて安全の規格や基準にあっていないとは限りません。マーク、SGマーク、SIマーク等安全マークがついているものでも、使い方や使用月齢が違っていたり、赤ちゃんの体に合っていないと事故は起ります。使い方の表示や注意書きは大切に、説明書を良く読み、構造や品質に問題はないうかを確認して使用します。



取扱説明書や使用上の注意を良く読み、きちんと守って使用する。  
子ども用品はデザインだけではなく、安全性にも目を配る。

**2** ベビーベッドの柵はいつも上げていますか。

赤ちゃんの発達は早く、まだ動けないから大丈夫と思って、ベッドの柵を下げたままミルクを作りたり、オムツを取り替えに行ったり赤ちゃんからちよつと目を離したときに転落事故は起こっています。



ベビーベッドに寝かせるときは、必ず柵を上げておく。

**3** テーブル、ソファなどの上に赤ちゃんを寝かせたまま目を離すことがありますか。

3か月ぐらいになると、赤ちゃんは手足をたくつかせ動き、顔のほうへずりあがったりします。5か月を過ぎると早い赤ちゃんは寝返りが打てるようになりますので、テーブル、ソファなど高いところに赤ちゃんを寝かせるときは、目を離すことができません。



テーブル、ソファなどの高いところに寝かせない。  
子どもは動くものだというのを忘れずに。

**4** 赤ちゃんを抱きながら、熱い食べ物や飲み物を食べたり飲んだり、料理することがありますか。

3~5か月にかけて赤ちゃんはこぶしをふるもつたり、物をつかんだりができるようになります。大人の持っている熱い食べ物、飲み物にも手を伸ばそうとするので、片手で赤ちゃんを抱きながら熱いものを握ることは危険です。また、抱いている赤ちゃんが動いたり、動かなくても誤ってカップが手から滑り落ちたりしないとは限りません。赤ちゃんの皮膚は成人に比べて薄く、洋服の上からでも容易に深度の深いやけどになってしまいます。



赤ちゃんを抱きながら、熱い物を食べたり飲んだり遊んだりしない。

**5** 赤ちゃんを抱いたり、おぶつたりするときは、周りにぶつかると危ない所がないか確認をしていますか。

赤ちゃんをおぶつて車に乗り込むとき、顔を入り口にぶつけてしまったり、抱っこして立ち上がろうとして机にぶつけてしまう事故が、赤ちゃんばかり気にかけていて周りを意識しないで行動したに起こっています。



赤ちゃんを抱いたりおぶつたりするときは、まわりにぶつかると危ないところがないか、安全を確認してから行動する。

**6** タバコや灰皿はいつも赤ちゃんの手の届かない所に置いていますか。

寝ばいになり、好きなおもちゃをつかんで遊べるようになった赤ちゃん、手を口に持っていき、なんでも口の中に入れてしまいます。タバコは2センチ以上飲み込むと、口に含めると危険なタバコが、赤ちゃんの手に届く場所にならぬか、いつも気をつけておく必要があります。



タバコや灰皿は手の届かないところに置く。  
ジュースの缶を灰皿がわりにしない。

**7** 自動車に乗るとき、チャイルドシートを後部座席に取り付けて使用していますか。

赤ちゃんを抱っこして車に乗るのは危険です。車が衝突すると腕から飛び出し、顔や頭をシートやダッシュボードにぶつけて、事故の衝撃をまともに受け取ります。また、エアバッグ付きの車の助手席にチャイルドシートを取り付けるのは、衝突によってエアバッグが作動すると押しつぶされるので危険です。



正に乗せるときは年齢にあったチャイルドシートを後部座席に取り付け使用する。

**8** 赤ちゃんを抱いているとき、自分の足元に注意していますか。

今まで簡単に通っていた所でも、赤ちゃんを抱いているときは足元が見にくいので、床が滑りやすかったり、カーペットがめくれていたり、ちよつとした障害にもつまづいてしまいます。赤ちゃんを抱いたまま転倒すると、床で押しつぶしてしまったり、テーブルや家具にぶつけてしまうので注意が必要です。



赤ちゃんを抱いているときは、自分の足元に十分注意を払う。

**9** 赤ちゃんの腕を、お兄ちゃんやお姉ちゃんが強引引っ張ることがありますか。

赤ちゃんの体は完全にはできあがっていないので、ちよつと腕を引っ張った程度でも脱臼をすることがあります。脱臼は痛くないので、赤ちゃんの腕を引くときは、急に引っ張ったり、強くなり過ぎないように普段から注意が必要です。



赤ちゃんの腕を引くときは強くなり過ぎないようにする。

## 6か月児健診用安全チェックリスト(6~9か月児対応)



子どもの周りには危険が一杯です。この機会にもう一度子どもの目の高さにおいて安全チェックをしてください。アンケートに記入し、同時に子どもの“安全”と“危険”について考えてみてください。安全チェックリストは記入後、健診時にご持参ください。

記入者の名前

子どもの名前 男・女

生 年 月 日 平 成 年 月 日

住 所 〒

※事故防止のパンフレットを送付しますので、よろしければ住所をご記入ください。

1. タバコや灰皿はいつも赤ちゃんの手の届かない所に置いていますか。	はい	いいえ
2. ストーブやヒーターなどは安全柵で囲って使用していますか。	はい (使用しない)	いいえ
3. ポットや炊飯器は赤ちゃんの手の届かない所に置いていますか。	はい	いいえ
4. お茶やコーヒー、味噌汁、カップラーメンなどをテーブルの端に置くことがありますか。	いいえ	はい
5. 階段に転落防止用の柵を取り付けましたか。	はい (階段なし)	いいえ
6. 歩行器は段差がない所で使用していますか。	はい (使用しない)	いいえ
7. つかまり立ちをさせるときは、赤ちゃんの傍についていますか。	はい	いいえ
8. 赤ちゃんがお座りをする傍に、角や縁の鋭い物がありますか。	いいえ	はい
9. おもちゃは安全マークを目安に選び、プラスチックの薄い突起や、とがった部分がないか確認していますか。	はい	いいえ
10. ドアのちょうつがい部分に、指が入らないようにガードをしていますか。	はい	いいえ
11. 自動車に乗るとき、チャイルドシートを後部座席に取り付けて使用していますか。	はい (車は使用しない)	いいえ
12. よだれかけのひもは外してから赤ちゃんを寝かせていますか。	はい	いいえ
13. 入浴中の赤ちゃんを一人にして目を離すことがありますか。	いいえ	はい

著作：田中哲郎 禁 無断複写

**11) 自動車に乗るとき、チャイルドシートを後部座席に取り付けて使用していますか。**

助手席に赤ちゃんを抱っこして車に乗るのは危険です。車が衝突すると前から飛び出し、頭や顔やシートやダッシュボードにぶつかる。事故の衝撃をまともに受けてしまいます。また、エアバックつきの車の助手席にチャイルドシートを取り付けるのは、衝突によってエアバックが作動すると押しつぶされて危険です。



車に乗せるときは年齢にあったチャイルドシートを後部座席に取り付け使用する。

**12) よだれかけのひもは外してから赤ちゃんを寝かせていますか。**

よだれが多くなるとよだれかけは欠かせませんが、赤ちゃんは寝返りをしたり、ずり上がったりと、寝ている間も動き回ります。首周りのきついつい服やよだれかけをきつく締めると、窒息をしよう危険があります。



赤ちゃんを寝かせるときはよだれかけははずす。首にかけるエプロンや衣類のひも、おもちゃのひもは注意する。

**13) 入浴中の赤ちゃんを一人にして目を離すことがありますか。**

入浴させたり水道びきさせている途中で、見えなしに爬れるようになったばかりの赤ちゃんを一人にして、着替えを取りにいったり、電話にでたりと目を見失ったときに溺水事故は起きています。



入浴中の赤ちゃんからは目を離さない。



著者 国立保健医療科学院 生涯保健部 田中 智郎

無断複製禁止

# 子どもに安全をプレゼント

6か月児健診用  
(6-9か月児対応)



事故防止のポイント(その3)

**子どものまわりに危険がいっぱい 周囲のちよつとした気づかりで事故の大部分は防げます。**

**1) タバコや灰皿はいつも赤ちゃんの手の届かない所に置いてありますか。**

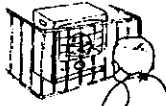
手の届くところにあるものがつかめるようになるこの時期、特に誤食事故が多くなります。赤ちゃんは大人が口にくわえるタバコに興味津々で、テーブルの上に置いておくのは危険です。また、液体に溶けたニコチンは吸収が早く、ひと口飲んだだけでも危険なので、飲み残しのジュースの缶を灰皿がわりに使うのはやめましょう。



タバコや灰皿は手の届かないところに置く。ジュースの缶を灰皿がわりにしない。

**2) ストープやヒーターなどは安全柵で囲って使用していますか。**

周囲にあるものに対して関心が強くなり始め、ヒーターの出口に指を付けたり、ストープの近くに寝かせて寝返りして手があたりたり、特に冬は暖房器具によるやけどが多くなります。最近のストープ、ファンヒーターなど強制換気が出ているものが少なくなくなってきています。換気が直接出ているものは必ず安全柵で囲い、直排子どもが触れられないようにします。



床に置くストープやヒーターは必ず安全柵で囲う。ストープの上にはやかんは置かない。

**3) ポットや炊飯器は赤ちゃんの手の届かない所に置いてありますか。**

赤ちゃんはハイハイができるようになると、床やタタミの上に置いてあるポットにつきまわたり、ひっくり返してお湯をこぼしたり、炊飯器の蒸気の噴出し口に、手を近づけてやけどをしてしまうケースが多くなります。



ポットや炊飯器は手の届かない所に置く。ポットにはロックをかけてお湯が出ないようにしておく。余分なコードは巻き取っておく。

**4) お茶やコーヒー、味噌汁、カップラーメンなどをテーブルの端に置くことがありますか。**

赤ちゃんは何でもつかめるようになると、熱いものにも平気で手をかけてしまいます。お母さんが食事の準備中、赤ちゃんがテーブルクロスや電気コードを引っ張って、テーブルの上のコーヒーやカップラーメンをひっくり返し、やけどをしようとしていたり、食事のときも赤ちゃんの手の届くところに熱いものは置かないようにします。



熱い食べ物や飲み物はテーブルの中央に置く。テーブルクロスは使用しない。

**5) 階段に転落防止用の柵を取り付けましたか。**

ハイハイが始まると探索行動が活発になり、階段や段差があるところで目が離せません。ちよつと目を離したスキに階段を上り下りできないよう、階段の上下に柵をつけることで転落事故の大部分は防げます。



柵は階段の上と下(1階部分と2階部分)の両側2カ所に取り付け、閉め忘れのないようにする。

**6) 歩行者は段差がない所で使用していますか。**

段差や階段があるところで、歩行者に乗って落ちてしまったり、ベビーカーやショッピングカートがいきなり立ち上がり転落してしまう事故があります。



歩行者は段差のないところで使用する。ベビーカー乗るときは必ずベルトを使用する。

**7) つかまり立ちをさせるときは、赤ちゃんの傍にいますか。**

テーブルや椅子につかまり立ちができるようになって、まだまだ大人が側についていないと不安定です。バランスを崩して転倒し、テーブルの角で顔や口を打撞したり切傷したりしてしまいます。



角のするどい家具やテーブルは安全グッズでカバーする。

**8) 赤ちゃんがお座りする際に、角や縁の鋭い物がありますか。**

赤ちゃんは頭が重く、おすわりをさせていてもバランスを崩して、前のめりをしたり、後ろに倒れたりするので、近くに敷居や家具があるとぶつかってしまいます。



赤ちゃんが座るまわりに角や縁のするどいものを置かない。かたいおもちゃなどのおもちゃにも注意する。

**9) おもちゃは安全マークを目安に選び、プラスチックの薄い突起や、とがった部分がないか確認していますか。**

子どもの生活におもちゃは欠かせません。最近は種類も豊富になり、安全性にも配慮がなされていますが、おもちゃが原因でさまざまな事故が起こっています。安全だと思っていても、子どもは大人が思いつかないような遊び方をします。遊んでいるうちにおもちゃが壊れ、口の中を切ってしまうりするので、熱中しているときも時々確認するのが大人の役目です。



おもちゃは子どもの年齢や発達にあったものを選び、安全マークがついていても、ほれたところがないか、プラスチックの薄い突起やとがった部分がないか確認する。

**10) ドアのちよつがつい部分に、指が入らないようにガードをしていますか。**

ドアのちよつがつい側に指はさむと大きな圧力がかかるため、指を骨折したり切断してしまうような大きな事故になりかねません。赤ちゃんの小さな手はちよつとしたすき間にも簡単に入ってしまうので、特に玄関などの重さのあるドアのちよつがつい部分には指が入らないようにガードをして防止します。



ドアのちよつがつい側には防止グッズでカバーをする。ドアを開閉するときは、赤ちゃんの手の位置を確認する。ドアを開けておくときは、風などで急に閉まらないようにドアロックや、ドアストッパーなどで固定する。

## 9か月児健診用安全チェックリスト(9~12か月児対応)



子どもの周りには危険が一杯です。この機会にもう一度子どもの目の高さにおいて安全チェックをしてください。  
アンケートに記入し、同時に子どもの“安全”と“危険”について考えてみてください。  
安全チェックリストは記入後、健診時にご持参ください。

記入者の名前 \_\_\_\_\_

子どもの名前 \_\_\_\_\_

子どもの性別      男   ・   女

生 年 月 日      年      月 (      才      か月)

1. タバコや灰皿はいつも赤ちゃんの手の届かない所に置いてありますか。	はい	いいえ
2. ボタン型電池や硬貨、ピアスなどの小物を机の上に置いてありますか。	いいえ	はい
3. 赤ちゃんがつかまり立ちをしたり、つたい歩きをするときは、傍について見えていますか。	はい	いいえ
4. 階段の上下階の両側に転落防止用の柵を取り付けていますか。	はい (階段なし)	いいえ
5. 子ども用の椅子は安定のよいものを使用していますか。	はい	いいえ
6. ストーブやヒーターなどは安全柵で囲って使用していますか。	はい (使用しない)	いいえ
7. テーブルクロスを使用していますか。	いいえ	はい
8. 家具などの角の鋭い部分には、クッションなどでガードがしてありますか。	はい	いいえ
9. テーブルや棚の上にある食器やビン、缶などは、赤ちゃんが自由に触れないようにしてありますか。	はい	いいえ
10. テレビ台のガラスの扉やビデオデッキのテープ口は、赤ちゃんが手や指を入れないようにしてありますか。	はい (使用しない)	いいえ
11. 自動車に乗るとき、チャイルドシートを後部座席に取り付けて使用していますか。	はい (車は使用しない)	いいえ
12. バケツや洗面器に水を貯めておくことがありますか。	いいえ	はい
13. ピーナッツやあめ玉などは赤ちゃんの手の届かない所に置いてありますか。	はい	いいえ

著作：田中哲郎 禁 無断複写



**11) 自動車に乗るとき、チャイルドシートを後部座席に取り付けて使用していますか。**

赤ちゃんを抱っこして車に乗るのは危険です。車が衝突すると腕から飛び出し、顔や頭をシートやダッシュボードにぶつけて、事故の衝撃をまともに受けてしまいます。また、エアバックつきの車の助手席にチャイルドシートを取り付けるのは、衝突によってエアバックが作動すると押しつぶされて危険です。



車に乗るときは年齢にあったチャイルドシートを後部座席に取り付け使用する。

**12) バケツや洗面器に水を貯めておくことがありますか。**

赤ちゃんは10cm程度の浅い水深でも溺れてしまいます。バケツや洗面器にたまっている浅い水を身を乗り出している姿で見ていたときに、顔がつかって溺れちゃったりするので、使い終わったら必ず水を捨ててください。水遊びをしているときは一人にしないことです。



バケツや洗面器には水をためておかない。水は手の届かないところに設置する。

**13) ビーナッツやあめ玉などは赤ちゃんの手の届かない所に置いていますか。**

赤ちゃんの口の大きさは最大直径32mmなので、これより小さなおもちゃなどは口の中に入ったり入ってしまったら、食べ物が飲み込みやすいので喉につかえてしまったりします。赤ちゃんの喉はまだ発達途上で、気管に物が入りやすく、ビーナッツや枝豆などの豆類を与えるのは危険です。豆類は赤ちゃんの気管をふさいでしまう大きさで、気管に入ってしまうと気がつかない、肺炎の原因を起してしまいます。



ビーナッツは3歳を過ぎるまでは与えない。食べ物は粒さや大きさ、口の中に入れる粒を考慮、ゆっくり食べさせる。



著者 国立保健医療科学院 生涯保健部 田中 智郎

無断複製禁止

# 子どもに安全をプレゼント

9か月児健診用  
(9~12か月児対応)



事故防止のポイント(その4)

国立保健医療科学院 生涯保健部 田中 智郎

**① 子どものまわりに危険がいっぱい 周囲のちよつとした気づかりで事故の大部分は防げます。**

**1) タバコや灰皿はいつも赤ちゃんの手の届かない所に置いていますか。**

大人が口にくわえるタバコに赤ちゃんは興味津々で、タバコの煙草事故が多く、口や灰皿をテーブルの上に置いておくのは危険です。また、液体に増えたニコチンは吸殻が早く、ひと口飲んだだけでも危険なので、飲み残しのジュースの缶を灰皿がわりに使うのはやめませう。



タバコや灰皿はいつも赤ちゃんの手の届かない所に置く。ジュースの缶を灰皿がわりにしない。

**2) ボタン型電池や硬貨、ピアスなどの小物を机の上に置いていますか。**

おもちゃを口に入れて電池のふたが開いてボタン電池を誤飲してしまったり、赤ちゃんは何気なくテーブルの上に置いた小物をつまんで口の中に入れてしまうので、床・畳・じゅうたんやテーブルの上には口に入れると危ないものは置いておけません。異物を飲みこんでしまった場合、普通48時間以内に便と一緒に排泄されますが、ボタン電池の場合は食道や胃で電気分解を起こして壊れることがあるので、すぐに医師の診断が必要です。



ボタン電池や硬貨、ピアスなどの小物はテーブルの上に置いたままにしない。自分の衣だけでなく、外出したときも注意する。

**3) 赤ちゃんがつかまり立ちをしたり、つたい歩きをするときは、傍について見ていますか。**

お座りしていたのに、いつも間にかつかまり立ちをする赤ちゃん。テレビやこたつにつかまり立ちをして後ろにひっくり返ったり、よちよち歩きでつまづいてテーブルにあたりつかまったり、まだまだ大人が側についていないと不安です。



赤ちゃんがつかまり立ちをしたり、つたい歩きをするときは、そばについて見ています。角のするどい家具やテーブルは安全グッズでカバーする。

**4) 階段の上下階の両側に転落防止用の柵を取り付けていますか。**

大人の目が離れることがあっても安全なように、階段の上下階に柵をつけ、閉め忘れないようにすることで、階段からの転落事故を防ぐことができます。



柵は階段の上と下(1階部分と2階部分)の両側2カ所に取り付け、閉め忘れないようにする。

**5) 子ども用の椅子は安定のよいものを使用していますか。**

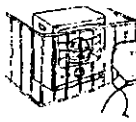
椅子に座っているときテーブルを足で蹴った勢いで椅子が倒れたり、椅子に自分よじ登ったりして立ち上がったとき転落する事故があります。脚が長く不安定な幼児用椅子などの高いところから落ちやすいので、子ども用の椅子を選ぶときには注意が必要です。



子ども用の椅子は安定のよい、倒れにくいものを選び、ハイチェアに座らせたら必ず安全ベルトをしめ、奥り降りするときは大人が行うようにする。

**6) ストープやヒーターなどは安全柵で囲って使用していますか。**

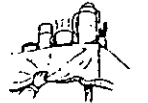
冬やけの多い季節です。ストーブの近くに寝かせて暖取りをして手があたったり、ヒーターの出口に指を付けたり、特に暖房器具によるやけどが多くなります。最近のストーブ、ファンヒーターなど直接燃焼器具が出るものが少なくなっていますが、燃焼が直接出ているものは必ず安全柵で囲い、直接子どもが触れないようにします。



床に置くストーブやヒーターは必ず安全柵で囲う。ストーブの上にはやかんは置かない。

**7) テーブルクロスを使用していますか。**

食卓にテーブルクロスをかけていると、赤ちゃんがつかまり立ちをするときに引っ掛けて、熱い食べ物や飲み物が置いてあるとこぼれてやけどをしてしまいます。



テーブルクロスは使用しない。

**8) 家具などの角の鋭い部分には、クッションなどでガードがされていますか。**

つかまり立ちや広い歩きの赤ちゃんに転倒はつきもので、目の高さにある家具や柱の角に、顔やおでこをぶつけてしまいます。家具類はなるべく丸みのあるものを選び、角にはクッションテープ等を取りつけ、ぶつかったときの衝撃を和らげる工夫をしておきます。



家具などの角のするどい部分には、クッションテープ等でガードしておく。

**9) テーブルや棚の上にある食器やビン、缶などは、赤ちゃんが自由に触れないようにしてありますか。**

テーブルの上に置いてあるコップを落としたり、割った破片を口に入れてしまったり、缶詰やジュースのビンを足に踏んでしまったり、手の届くところにあるものに、興味を持って触ったり、引っ張ったり、押したりするなどのかわりから、外傷や打撲事故がめられます。



テーブルや棚の上にある食器やビン・缶などは、赤ちゃんが自由に触れないようにしておく。

**10) テレビ台のガラスの扉やビデオデッキのテープ口は、赤ちゃんが手や指を入れないようにしてありますか。**

テープが出たり入ったりするビデオデッキの挿入口、赤ちゃんがおもちゃを中に入れて遊んだり、指を入れてみたくなる所です。手を入れて触れなくなったりしないように、カバーでおおえば手を抜く危険がふせげます。



テレビ台のガラスの扉やビデオデッキのテープ口はカバーで覆い、開けられないようにしておく。

## 1歳児健診用安全チェックリスト(1~1歳6か月児対応)



子どもの周りには危険が一杯です。この機会にもう一度子どもの目の高さにおいて安全チェックをしてください。  
アンケートに記入し、同時に子どもの“安全”と“危険”について考えてみてください。  
安全チェックリストは記入後、健診時にご持参ください。

記入者の名前 \_\_\_\_\_

子どもの名前 \_\_\_\_\_

子どもの性別            男 ・ 女 \_\_\_\_\_

生 年 月 日            年    月 (    才    ヵ月)

1. 子どもが敷居や段差のある所を歩くときは、つまづかないように注意していますか。	はい	いいえ
2. 階段や玄関などの段差のある所に子どもが一人で行くことがありますか。	いいえ	はい
3. 家具などの角の鋭い部分には、クッションなどのガードがしてありますか。	はい	いいえ
4. 熱い鍋やアイロンは子どもの手の届かない所に置いていますか。	はい	いいえ
5. タバコが入っているバックを子どもの傍に置くことがありますか。	いいえ	はい
6. かみそり、包丁、はさみなどの刃物は使用したら必ず片付けていますか。	はい	いいえ
7. ドアを開閉するとき、子どもの手や足の位置を確認していますか。	はい	いいえ
8. 自動車に乗るとき、チャイルドシートを後部座席に取り付けて使用していますか。	はい (車は使用しない)	いいえ
9. 入浴後、浴槽のお湯は抜いていますか。	はい	いいえ
10. 子どもが一人で浴室に入れないようにドアに鍵をつけていますか。	はい	いいえ
11. ビニール袋やラップは子どもの手の届かない所に片付けていますか。	はい	いいえ

著作：田中哲郎 禁 無断複写

10) 子どもが一人で浴室に入れないようにドアに鍵をつけていますか。

じっとしていることが少なく、一人でもよちよち歩いていってしまうのが心配。知らないうちに浴室に入ってしまう、浴槽をのぞきこんで溺れてしまう事故が起きています。浴室のドアは開けっ放しにせず、カギをかけて自由に入出入りできないようにしておきます。鍵はできれば外側上部に日曜大工などで簡単に取りつけられるもので充分です。



子どもが簡単に浴室に入れないようにドアにはかぎを付ける。

11) ビニール袋やラップは子どもの手の届かない所に片付けていますか。

シールやラップをはがして遊んでいて、飲み込んで喉に詰まらせてしまったり、ビニール袋を口からかぶって、鼻や口をふさいでしまったり、特にスーパーやコンビニのビニール袋には注意が必要です。また、壁に貼ってある袋やひもに首をひっかけて窒息する事故も起こっています。



ビニール袋やラップは子どもの手の届かないところに収納する。ビニール袋をおもちゃがわりして遊ばせない。

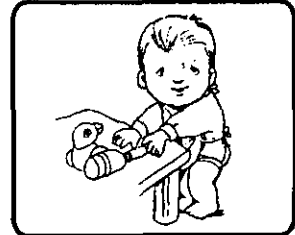
子どもに安全をプレゼント

著者 国立保健医療科学院 生涯保護部 田中 智郎

無断複製禁止

子どもに安全をプレゼント

1歳児健診用 (1~1歳6か月児対応)



事故防止のポイント(その5)

国立保健医療科学院 生涯保護部 田中 智郎

1) 子どものまわりに危険がいっぱい周囲のちょっとした気配りで事故の大部分は防げます。

1) 子どもが敷居や段差のある所を歩くときは、つまずかないように注意していますか。

歩行が少しずつ安定してきますが、まだまだちょっとした段差にもつまず転倒します。歩き始めた子は足がもつれて床で滑ったり、敷居につまづいて頭を打つことが多く、まだまだ大人が頼りにしていないと不安定です。



敷居や段差のあるところは、ゆっくりと手をさつないで支えて歩く。

2) 階段や玄関などの段差のある所に子どもが一人で歩くことがありますか。

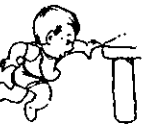
玄関に歩いて行って転落したり、階段をよつんばいして上がってしまい転落したり、ちよつと目を離したときに、思わぬところに移動するようになるので、転落の危険のある場所にはドアに鍵をかけた扉をつけて、一人ではいけなくしておくべきです。また、テーブルやたつ、椅子等の高いところに立ち上るのを喜び、買い物カートやベビーカーから立ち上って転落する事故も起こっています。



階段や玄関などの段差のあるところは、子どもが自由にいけないようにしておく。

3) 家具などの角の鋭い部分には、クッションなどのガードがしてありますか。

歩きまわって転倒し、家具や柱の角に頭やおでこをぶつけてしまいます。家具類はなるべく丸みのあるものを選び、角にはクッションテープ等を取りつけ、ぶつかったときの衝撃を和らげる工夫をしておきます。



テーブルや家具に限らず、角やぶちの鋭い部分にはクッション材等でガードをしておく。

4) 熱い鍋やアイロンは子どもの手の届かない所に置いていますか。

ちよつと目を離したときに、レンジから下ろしたばかりのやかんや熱い鍋を触ってしまったり、ひっくり返してやけどをしてしまう事故が起られます。使い終わったばかりのアイロンの温度は90度ですが、温度を冷ますときも手の届かない所に置きます。



熱い鍋やアイロンは子どもの手の届かないところに置く。

5) タバコが入っているバックを子どもの傍に置くことがありますか。

子どもは好奇心が旺盛なので、大人が物を出し入れするバックが気になる物がたくさん入っています。バックの中に入っていると大丈夫と思って、子どもが勝手にタバコをバックの中からはき出してしまった事故が起きています。また、公園などで外遊びをするときは、たばこの吸殻が落ちていないか確認してから遊ぶことも必要です。



タバコはいつも子どもの手の届かない所に置く。

6) かみそり、包丁、はさみなどの刃物は使用したら必ず片付けていますか。

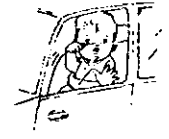
まな板の上に置いた包丁を取らうとして、足の上に落としたり、洗面台のかみそりを置きました。洗面台のかみそりを置きました。子どもは大人が使っているものに興味を持ち、真似をして自分で使ってみようとして、刃物を使用したときに収納場所に片付ける習慣をつけておきます。



かみそり、包丁、はさみ等の刃物は使用したらすぐに片付ける。

7) ドアを開閉するとき、子どもの手や足の位置を確認していますか。

子どもの行動範囲が広がると、自動ドア、エレベーター、車のパワウィンドウなど、色々な所で手や足がはさまる事故が多くなります。ドアやサッシが人が出入りする度に触れる場所でもあり、ドアを開閉するときは、指をはさまないように注意し、すき間には指を入れて遊ばないようにガードを付け防止する。



ドアを開閉するとき、子どもの手や足がどこにあるか確認する。

8) 自動車に乗るとき、チャイルドシートを後部座席に取り付けて使用していますか。

子どもは歩けるようになると、なかなかじっとしてられません。チャイルドシートに嫌がって座らないと、抱きかかえて乗せてしまいがちになります。スピードを出していても、衝突による力は子どもを死なせたり、ひどく傷つけてしまいます。一緒に後部座席でシートベルトをしており、好きなおもちゃを持って座らせる等工夫をしてチャイルドシートに慣れさせ、必ず使用します。



車に乗せるときは、後部座席にチャイルドシートを設置して座らせ、シートベルトをしっかり閉めておく。

9) 入浴後、浴槽のお湯は抜いていますか。

浴槽につかまじ立ちをさせていたら、よじ登って溺れてしまうことがあるので、お母さんがシャワーを浴槽の外にしているからといって安心できません。掃除をしようとして浴室のドアを開け放しておいたら、勝手に入って溺れていた。入浴後、浴槽のお湯は抜いておき、浴槽の蓋は入浴する直前に外します。



入浴後、子どもが小さいうちは浴槽のお湯は抜いておく。浴槽の蓋はたわみにくく、しっかりしたものを選ぶ。

## 1歳6か月児健診用安全チェックリスト(1歳6か月～3歳児対応)



子どもの周りには危険が一杯です。この機会にもう一度子どもの目の高さにおいて安全チェックをしてください。  
アンケートに記入し、同時に子どもの“安全”と“危険”について考えてみてください。  
安全チェックリストは記入後、健診時にご持参ください。

記入者の名前 \_\_\_\_\_

子どもの名前 \_\_\_\_\_

子どもの性別            男 ・ 女

生 年 月 日            年            月 (            才            カ月)

1. 子どもが遊んでいる周りに、つまずきやすい物や段差がないか注意をしていますか。	はい	いいえ
2. 階段を昇り降りするときは、大人がいつも子どもの下側を歩くか、手をつないでいますか。	はい (階段なし)	いいえ
3. 子どもの位置を確認してからドアを開けていますか。	はい	いいえ
4. ペンやフォーク、歯ブラシなどをくわえて、走り回ることがありますか。	いいえ	はい
5. 子どもの腕を強く引っ張ることがありますか。	いいえ	はい
6. ストーブやヒーターなどは安全柵で囲い、子どもが熱い物に触れないようにしていますか。	はい (使用しない)	いいえ
7. 医薬品、化粧品、洗剤などは子どもの手の届かない所に置いていますか。	はい	いいえ
8. 子どもが鼻や耳に小物を入れて遊んでいることがありますか。	いいえ	はい
9. 子どもが引き出しやドアを開け閉めして遊んでいることがありますか。	いいえ	はい
10. 自動車に乗るとき、チャイルドシートを後部座席に取り付けて使用していますか。	はい (車は使用しない)	いいえ
11. ピーナッツやあめ玉などは子どもの手の届かない所に置いていますか。	はい	いいえ
12. 入浴後、浴槽のお湯は抜いていますか。	はい	いいえ
13. 子どもが浴室のドアを開けて一人で中に入ることがありますか。	いいえ	はい

著作：田中哲郎 禁 無断複写